

## 新造客船を追う-「みらい」「ニューびんご」「フェリーたかちほ」

2022-1-28 池田良穂

正月も明けてから 1 ヶ月近くが過ぎようとしています、まだ今年になって一隻も船に乗っていないのでうずうずしてきました。

毎年委員を務める淡路市が設置する岩屋～明石間の渡船「まりんあわじ」の評価委員会の関係で津名にある市役所を訪れる機会があり、天気も良さそうなので、そのついでに岩屋で明石海峡を通過する船のシップウォッチング、そして小豆島～宇野航路の新造船、尾道～常石航路の新造船に乗る短い旅にでかけることにしました。

淡路島での仕事とシップウォッチングを終えてから宇野までドライブ。宿は前日の予約だったのであまり選択肢はなく、初めて外国人旅行者向けの旅館に宿泊しました。畳敷きの部屋にベッドが置かれているだけでテレビもなく、夕方に到着したのですが、外で夕食を終えたとんでもなく手持無沙汰な夜になりました。

翌朝、小豆島豊島ラインの新造旅客船「みらい」に乗船しました。船は豊島の 2 つの港に寄って小豆島の土庄まで行きます。同じ会社が運航する「フェリーてしま」では小豆島まで約 1 時間半かかりますが、高速の同船では約 1 時間で到着します。ただ、高速船料金は取っておらず、フェリーと旅客船と言う区分になっていて、旅客運賃は同じです。これまで就航していた「ひかり」は、大阪のアルミ船造船所三保造船所で建造された単胴高速船を購入したもので、三保造船所は既になくなっていました。新しい「みらい」を建造したのは広島のスネイシクラフト&ファシリティーズです。船内はなかなか快適ですが、航海中は外部に出られないとのことだったので、宇野から豊島の家浦港までの 25 分間だけの乗船にして、家浦港で下船して出港する「みらい」の姿をカメラに収めました。25 分の待ち時間で「フェリーてしま」に乗船して宇野港まで戻りました。この家浦港から宇野港までの航海は、島の間の瀬戸を通過したり直島の絶景が楽しめたりとクルーズ気分が楽しめるのでお勧めです。

宇野港で下船して高速道路を通って尾道に向かいました。ちょうど尾道港を 13 時 15 分発の備後商船の新造高速旅客船「ニューびんご」に乗ることができました。こちらは高速船ながら、展望デッキのあるまさにクルーズ仕様の船です。建造所は「みらい」と同じくスネイシクラフト&ファシリティーズで、途中で戸崎、満越港に寄り、離島である百島(ももしま)の福田港に寄ってから常石まで行きます。この航路も景色の良いクルーズ向きの航路です。本来は百島への離島航路船ですが、新しい「ニューびんご」の就航で、片道約 35～45 分の航海がミニクルーズとしても楽しめるようになりました。特に尾道水道を通過する航海は楽しく、さらに水道を抜けると尾道造船や、小型アルミ高速船建造で有名な木曾造船、瀬戸内クラフト、スネイシクラフト&ファシリティーズが海から眺められ、最後に常石造船で建造される大型船が並ぶ光景が見られます。同じ航路にカーフェリー「百風」(ももかぜ)も就航しており、こちらは片道約 1 時間の航海です。

尾道では、水道に面した新しいモダンな Urashima INN に宿泊しました。部屋の窓から水道を行き交う船を眺めることができますし、屋上の展望テラスもシップウォッチングに

は最適です。1階のフロントはショットバーとなっていて雰囲気もいいのですが、蔓延防止措置が発令されていてバーは休業でした。次回は、船の行き来を眺めながら一杯傾けたいと思います。宿泊費は1泊6000円ほどとリーズナブルでした。

翌朝、尾道水道を渡船で渡って向島に上陸し、しまなみ海道で因島に渡って土生港から再びフェリーで生名島へと渡りました。尾道水道を横断する渡船の料金は車でも100円、生名島の町営フェリーは往復1100円とリーズナブルな運賃でした。この生名島はこれが初めての訪問だったのですが、地図からすると内海造船の因島工場の対岸にあたるので、艀装中の宮崎カーフェリーの「フェリーたかちほ」の姿が見られるのではないかと期待しての訪問でした。思惑通り、生名島からは朝日に輝く「フェリーたかちほ」と、船台上で建造が進む第2船の姿を拝むことができました。「フェリーたかちほ」は、4月15日に神戸～宮崎間に就航の予定です。ぜひご乗船ください。



明石と岩屋を結ぶジェノバラインの高速旅客船「まりんあわじ」。上下分割方式で船は公的に建造されているので、毎年、経営の審査が行われています。



RORO 貨物船「第5はる丸」が明石海峡を通過してきました。



LNG MARS が姫路に向って行きました。



朝の宇野港はビジーポートで、まず、直島から高速船「アートバード」が入港してきました。



続いて「ラブバード」の入港です。



新造船「みらい」の入港です。



「みらい」が浮桟橋に着岸しました。



朝の8時過ぎに3隻が並んで、宇野港の高速旅客船桟橋は一杯になりました。



「みらい」の船内です。



家浦港で下船して、「みらい」の顔写真が撮れました。



家浦港を小豆島に向けて出港する「みらい」です。



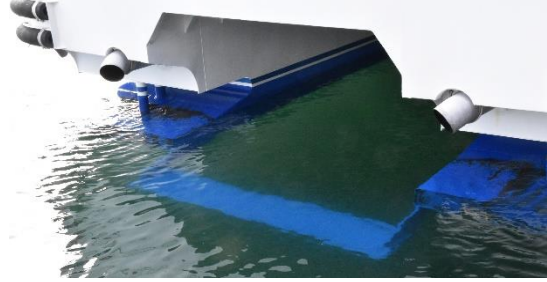
家浦港から宇野港まで「フェリーてしま」で戻りました。この船も小粒ながらクルーズ向きのいい船です。



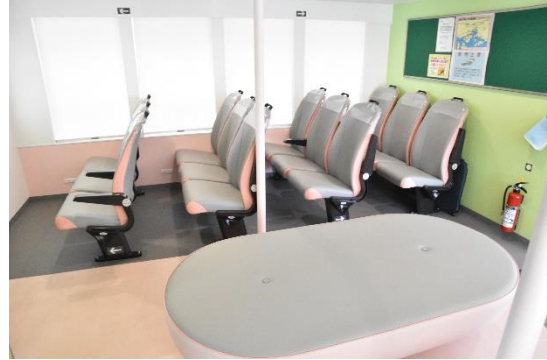
宇野港のフェリー棧橋に「なおしま」と「フェリーてしま」が並びました。



尾道港の浮棧橋に停泊する「ニューびんご」です。



船尾の水面からはフィンが設置されていました。



「ニューびんご」の船内客室です。



ブリッジの左右には、高級観光バスのようなサイドミラーが付いていました。



オープンデッキにはお洒落な椅子が並んでいて、快適な航海が楽しめます。



「ニューびんご」のモダンな展望デッキです。



展望デッキに登る階段には自転車を上げるためのレールが設置されていました。



尾道水道を出ると左手に見える尾道造船のドックには「さんふらわあふらの」の姿がありました。



歌戸渡船の2隻と出会いました。



常石造船のリゾートホテルと、下のマリーナにはクルーズ客船「ガンツウ」の姿がありました。



百島の福田港で下船して、出港する「ニューびんご」の全景写真が撮れました。同船は常石港に向かって出港していきました。



「フェリー百風」が百島にやってきました。



常石港を出港して百島に向って全力疾走中の「ニューびんご」です。背景は常石造船で建造中の貨物船です。



常石を出て百島の福田港に近づく「ニューびんご」の背景には、同船の生まれ故郷のツネイシクラフト&ファシリティーズのアルミ船工場が写っています。



「ニューびんご」に乗船して尾道港に向かいました。尾道水道沿いの建物です。



尾道の旅客船棧橋です。短い船旅が終わりました。航海中に展望デッキに出ていたのは筆者だけでした。平日だったことありますが、観光客にも使って欲しい航路です。



朝と夕方の尾道水道のフェリーは、各渡船場も全船稼働で人と車、自転車を運んでいました。昼間には、1隻だけの運航になります。



因島の土生港から生名島には市営フェリー「ゆめしま」で渡りました。車も積んで往復 1100 円と言う安さでした。島の公共の足なのですね。



生名島のフェリー埠頭です。左が「ゆめしま」、右が「いきな」です。



内海造船の因島工場で艀装中の宮崎カーフェリーの「フェリーたかちほ」(左)と、船台上で建造中の第 2 船「フェリーろっこう」です。「フェリーたかちほ」は 4 月 15 日の就航です。就航が楽しみです。



これまでにないユニークな船首が光っています。



船尾からのショットです。